

「魔性の魅力を持つ音と濃厚な表現 一度聴けば、癖になる」

高坂はる香 音楽ライター

エフゲニ・ボジャノフの演奏は、一度聴くと癖になる。百面相のように表情を変える美しい音色と、濃厚な音楽表現。刺激的な演奏に心が騒ぎ、それに身を委ねると、どこか遠くに連れていかれるような特別な感覚で満たされる。

ブルガリア生まれのボジャノフは、子供の頃、祖母に連れられてよくオペラを聴きに行ったそうだ。気に入った曲があると図書館でピアノ譜を探し、弾いて遊んでいたという。型にはまらない表現、人生のドラマを歌うようなピアノリズムは、こうした環境の中で培われたのだろう。そして16歳でドイツに留学。数々の主要国際コンクールで上位入賞を果たし、各地で聴衆を熱狂させ、同時にその実に個性的な演奏で審査員席に論争をもたらした。それほど強い主張を持つ音楽であるから、初めて聴いたときには驚く方もいるかもしれない。しかし、彼の美しい音へのこだわり、独自の感性で楽曲を探究した表現の妙に気付くと、その音楽の虜になる。

今回の演目も、ボジャノフの感性が存分に発揮されるものだ。ベートーヴェンの「月光」ではおそらく見たこともない夜を再現し、ラヴェル「ラ・ヴァルス」ではパワーと遊び心が炸裂する一期一会の演奏を届けてくれるだろう。シューベルト最後のソナタで聴かせる繊細かつ骨太な歌にも大いに期待したい。

ソロリサイタルツアーのための来日は5年ぶり。あの卓越した音と魔性の歌は、生の演奏で聴いてこそ。この機会に、ぜひホールで体感してほしい。

EVGENI BOZHANOV

エフゲニ・ボジャノフ ピアノ・リサイタル PianoRecital 2017

エフゲニ・ボジャノフ

ブルガリア出身。ボリス・ブロッホ、ゲオルク・フリードヒ・シェンクに師事。

2008年リヒテル国際ピアノ・コンクール優勝、10年エリザベート王妃国際ピアノ・コンクール第2位。同年ショパン国際ピアノ・コンクール第4位入賞となるも、審査員のアルゲリッチから唯一賞賛の拍手を贈られる程の名演で話題をさらった。

これまでに、ベルリン・ドイツ交響楽団、スウェーデン放送交響楽団、RAI 国立交響楽団、フィレンツェ五月音楽祭管弦楽団、スイス・イタリアーナ管弦楽団、バイエルン放送響室内楽団、シュトゥットガルト・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団等と共演。指揮者は、ユベール・スターン、佐渡裕、ユッカ=ベッカ・サラステ、トゥガン・ソヒエフ、ダニエーレ・ルスティオーニらと共演。毎年ワルシャワで開催されているショパン・フェスティバルに度々招かれている。また、ベルリン・フィルハーモニーホール、ウィーン楽友協会、ロイヤル・フェスティバルホール、ロンドン、トーンハレ・デュッセルドルフなど、世界中の主要なホールで演奏している。日本では、11年、15年兵庫芸術文化センター管弦楽団と共演。11年ベルリン・ドイツ交響楽団の日本ツアーにおいてソリストを務めた。12年サントリーホールでソロ・リサイタルを開催。15年ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンに出演。16年、横浜市招待国際ピアノ演奏会に出演。CDは多数リリースしており、デビュー作「フレデリック・ショパン」が<ドイツレコード評論賞>を受賞。

[チケット取扱い]

Kitara チケットセンター 011-520-1234

チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード/334-399]

ローソンチケット 0570-000-407
* Lコード予約 0570-084-001 [Lコード/11567]

大丸プレイガイド (南1西3) 011-221-3900

道新プレイガイド 011-241-3871

イープラス <http://eplus.jp/>

[ご予約・お問い合わせ]

オフィス・ワン ☎011-612-8696
[電話受付 10:30~18:00 土・日・祝日休]

オフィス・ワン 検索

※未就学児童の入場はご遠慮ください。
※都合により曲目・曲順は変更になる場合がございます

© Marco Borggreve

